



加彩武人俑 (唐時代)

古代中国 墳墓の護り手

天理ギャラリー第168回展



銀象嵌仙界禽獸文鉄鏡 (唐時代)



灰陶加彩鎮墓獸 (北齊時代)



青銅連環飾金具 (漢時代)



雲文環 (東周時代)

2019

10/5 (土) ▶ 11/30 (土)

開館時間 午前9時30分～午後5時30分 (入館は午後5時まで)

休館日 毎週日曜日 入館料: **無料**

天理参考館学芸員による展示解説 10月5日 (土) 午後1時30分から



緑松石嵌入青銅曲内戈 (殷時代)

天理ギャラリー

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-9 東京天理ビル 9 階
TEL 03-3292-7025

URL <http://tokyotenrikyokan.co.jp/gallery/>
<https://www.sankokan.jp/> (天理参考館ウェブサイト)

古代中国 墳墓の護り手



今回の展覧会では、古代中国において死者を邪悪な存在から護るために墳墓に納められた品々を紹介いたします。天理参考館に收藏される考古美術資料の多くは副葬品などの墳墓関係資料となりますが、「役割」という視点で考えてみると様々な分類することが可能です。例えば、生前の富や権力などを示す品々、被葬者の死後の豊かな生活と安寧を保證する品々、生前に愛用していた品々などが見られますが、もう一つ重要な機能をもって納められるものに辟邪（魔除け）の品々があります。古代中国の人々は、死後の世界とそこにおける新たな生活を想定し、死後の世界とは異なった法則や危険が存在すると考えていました。死後に魂や肉体を苦しめ害する悪霊邪鬼の類は大きな恐れの対象であったのです。

本展では、墳墓において邪悪な存在を退ける「辟邪」の役割を担った器物を、魂や死後の肉体を護るもの、墓室（方位・空間）を護るものなどの機能別に展示し、それぞれの内容や意味を比較しながら古代の人々の死後に対する「恐れ」やそれに対する「備え」についての思想を感じ取っていただきたいと思います。



青銅剣（春秋後期～戦国時代）

■ 展示資料の紹介

- 素文璧（良渚文化期）
 - 緑松石嵌入青銅曲内戈（殷時代）
 - 玉覆面（西周時代）
 - 雲文環（東周時代）
 - 押型西王母射人騎空埴（前漢時代）
 - 鍍金青銅虺龍文香炉（前漢時代）
 - 灰陶彩画鷓鴣尊（後漢時代）
 - 青銅連環飾金具（漢時代）
 - 玻璃穀粒文製壁（漢時代）
 - 青磁鉄斑天鷄壺（東晋時代）
 - 唐草十二支文鏡（隋～唐時代）
 - 白陶加彩武士俑（唐時代）
 - 銀象嵌仙界禽獸文鉄鏡（唐時代）
 - 四神十二支文鎮墓石（唐～宋時代）
- など77点



加彩鎮墓獸（唐時代）



青銅禽龜飾博山炉
（前漢時代）



尚方方格規矩四神鏡
（後漢時代）

天理ギャラリー

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-9
東京天理ビル 9階 TEL 03-3292-7025



◇ 天理参考館学芸員による展示解説
10月5日（土）午後1時30分から

- 開館時間 午前9時30分～午後5時30分（入館は午後5時まで）
- 休館日 毎週日曜日
- 入館料：無料

URL <http://tokyotenrikyokan.co.jp/gallery/>
<https://www.sankokan.jp/>（天理参考館ウェブサイト）

交通 JR・東京メトロ / 神田駅より西へ約500m
東京メトロ / 新御茶ノ水駅より南へ約600m
東京メトロ / 淡路町駅・都営地下鉄 / 小川町駅より南西へ500m